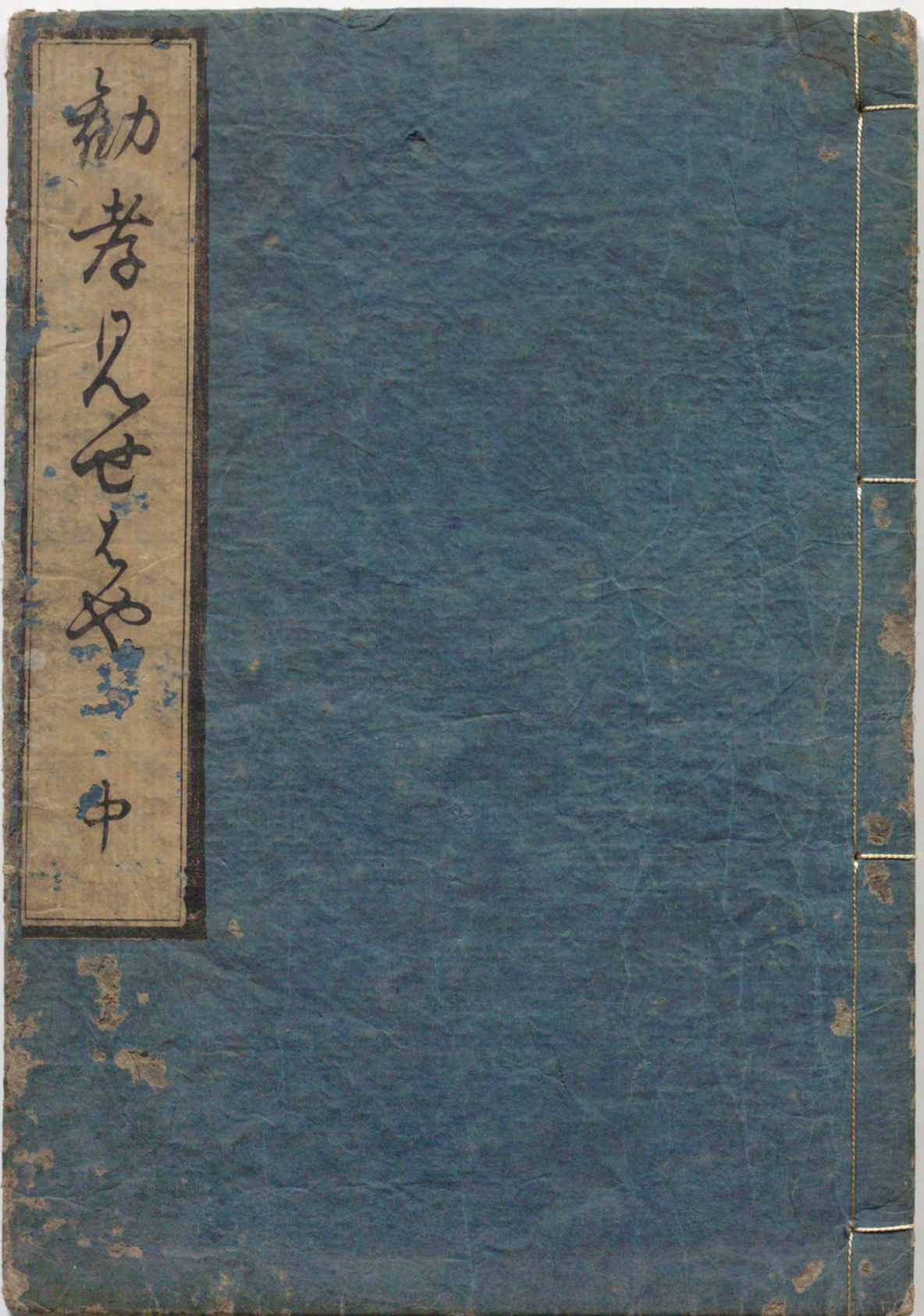
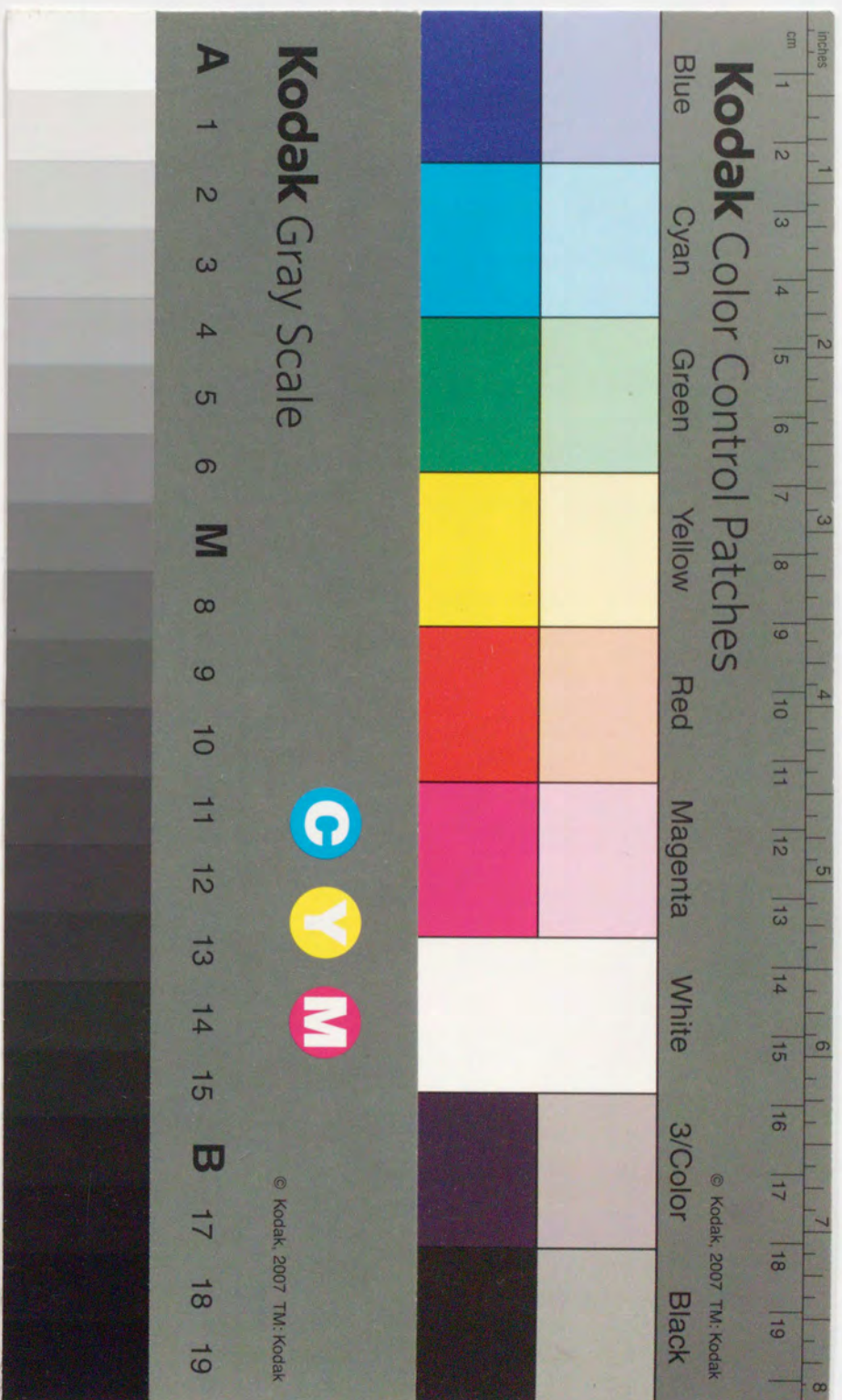




年^と至^し十^じ五^ご六^{ろく}

性^{せい}氣^き漸^{ぜん}剛^{かう}



行^{ぎやう}止^し難^{なん}拘^{かう}束^{そく}

サ^サ十^じ五^ご六^{ろく}歳^{さい}なり所謂^{いふなり}と名^なづけりといふ
性^{せい}氣^きそ^そく^く剛^{かう}とて父^{ちち}母^{はは}
乃^{すなはち}強^{かう}項^{かう}く膽^{たん}を^を止^{とど}
と言^いひ及^{およ}ぶを告^つげて拘^{かう}束^{そく}とて地^ちを^を著^{しやく}



薩乃急然^いあましく六道^{ろくど}のふり賞^{あづか}ぐ
淨瑠璃^{じやうるり}とあふ^う映^え夜^よにび千變^{せんぺん}美^み
化^{くわ}の^ろこれあ^う條^{じょう}つりと海^{うみ}乃^の淡^{たん}比^ひ真^ま
沙^さの^はは^はも父母^{ふぼ}乃^の表^へを^く盡^{つく}る期^きふ

朋友外遊遊 酒色恣所欲^{このこ}

不善^{よくぬ}人と居^ゐれ^と鮑^{ほう}魚^{ぎょ}れ^と肆^し入^いぐ^とや
久^いう^として其^{その}真^まと^をず^らび^とあり^と損^あ友^れの

奥^{おく}が漸^そあ^とこ^と初^{はつ}ハ咽^おる^と煙^{えん}叶^{えつ}も^も尻^{しり}
燐^{りん}ろ^ろる^とや^とい^とる^と辣^{しか}い^と酒^{しゅ}が^が旨^{あじ}う^とな^とる^と
乃^のま^まあ^あ玉^{たま}危^{あや}る^とて^と當^{あた}め^めけ^け上^う量^{りやう}味^み起^お
酒^{しゅ}の^の娼^{ちや}樓^{ろう}が^がい^い門^{もん}に^に松^{しょう}と^と旦^{たん}と^と柳^{りゅう}
小^{せう}菖^{しょう}蒲^ぼろ^ろ妻^{さい}深^{しん}沼^{しやう}納^{なつ}涼^{りやう}舟^{ふね}軒^{けん}乃^の燈^{とう}籠^{ろう}
兩^{りやう}會^{かい}は^は月^{げつ}重^{じゆう}九^く節^{せつ}せ^せり^りん^ん張^{ちやう}も^もい^いろ^ろ
たる^たる^るの^の暮^{くれ}紅^{こう}白^{はく}乃^の費^ひ用^{よう}も^も又^{また}の^の眼^{がん}代^{だい}
ぬ^ぬと^と遊^{あそ}べ^べ或^{ある}ハ遊^{あそ}覧^{らん}戲^ぎ場^{ばう}や^やに^に烟^{えん}袋^{たい}

やいふ心く 舊に比言を 幫間づ 羨む
 らや 肝積を 仲居が 抱一句も 拈む
 仙号ついで 三も 甲の ちわ けり あり
 魚で ちく へ 獲る に 之 弦も ちつ けり
 うけ つけ も せぬ 優人 きの け 厨飲 して
 言も ろい 下酒の 磁器で ちく け 斟羹の 和
 調中 短褐 紺 此 足 休 歌 曲 新調の 幹旋
 ちく ち 連中 樂屋 づき 舎 ちく ち 此 趣向

せん 唐場ろ ちく ち 粧 橋も 候 視み
 自東 させり 秘通 ちく ち 全事情 あり
 自今 粹は ちく ち 此 ちく ち 人の 新削
 方言 あぐ ね せり づ ち ち の ちて ちく ち ち
 男児 ちく ち ぬろ イマ 女子 ちく ち 橋 ちく ち ち
 千艘 ちく ち 船 ちく ち 帆を 揚げ サツサで ちく ち
 父母 孝行 ちく ち 我 家 業と 高岡 ちく ち ち ち
 ちく ち 野 ちく ち ち 山 ちく ち ち 貌 ちく ち ち

暫時もうちにかゝるやうに思ふにけり
くさくさしてても利に虚言は月も
かた圓くもゆき言は曉のやう冒て風
くさくさい東風でぬる大花の鰻鱺魚
寂所りけ漏さく飯じや丸團魚じや
のゝ大酒痛飲で饕餮河豚羹も吸ひ灸
治とさくひねる停食宿酒枇杷葉湯
すて父母の幹旋父ハ苦し子ハ樂しみ

縁乃乞すすけふてハ素朴つめもさうり
孝りみせやあゝむもせえてハ是
やうに日々夜々苦き苦きけぬやう
あやうし父母唯其疾之憂とけりて病
質なりと親ふ憂させくふ孝なりと
よりく方沢謹そ保養して外邪
感あはれハ是然なり唯その他のこ
とハ苦しみやそれあるに君方乃疾病



ふはけてハ憂をかち壯健なれハはけてハ
愈々いゝ若くける年竟るれハ泥ふ
孝といふものなり五刑之属三千罪ふ
孝より大なるれハ必死ても畏るべし

日暮不歸家 倚門至昏旭

日暮中てといれども晨く家を出て昏
までと反らばちと宵ふ出て曉までと

きくめをいふふ孝れ児やどあを
しも可憐と思ひ母親乃陰にたり陽
ふれを父親よりなしつるいさゝ
もあふりてあふさるは又幼き
あふりて父のく夫不孝も夜にやう
目ざまり歌妓乃之徒又魂を有預天を
はをいげし花娘はちとにやう人
あはれしつるやど旨いもの餐く酒

飲んぶ小娘のゆめ正傳ふー孟氏叩て
 愚状ふくー家持勢ハ空吹風の音に
 通宵母と室は眼も合ふ寸父と子此氣をうの
 てきうう程うなる門は倚る子の反る所
 うちあふうう古人乃句ふ新あふるを
 母親寐さるる袂離るる

この ちくそと見りのいものり
 兒行千里程 母心千里逐

父母在不遠遊とてうー切要れとて
 てハ父母とさーあれ遠る遊ハせぬとてなり
 それハ何んぞハ侍勢来文乃大和女とて
 播磨巡覧の金毘羅江とて神も佛も
 何乃アあまう雁北羽ハふとと飛ぶと
 連ぢうお妓花嬢乃とていさひいれ
 つとけきうう浄瑠璃衣裳とてうと
 外飾とてくろひ馬とてせ竹輿ハいふ

驕^{おご}り^ろに^さま^まな^なを^をす^す一^一寂^{さむ}光^{くわう}乃^の於^お於^お
いで^い花^は見^みぢや^{ぢや}ご^ごに^に醜^{しう}可^かき^き人^{にん}神^{しん}を^を能^い
礼^れと^と饗^{かう}た^たむ^むじ^じと^とあ^あま^まに^に納^なめ^めと^とサ^サテ^テに^に
い^いく^くつ^つが^がは^は神^{しん}も^も佛^{ぶつ}菩^た薩^{さつ}も^もつ^つら^らむ^む
わ^わそ^そ居^いる^るあ^あん^んさ^さね^ねも^も母^{はは}の^のこ^こい^いげ^げお^お
ふ^ふそ^そい^い千^{せん}里^りに^に程^{ほど}も^も遠^{とほ}い^いち^ちと^とた^たう^うあ^あう^う
ま^まに^に一^{いっ}代^{だい}の^の守^{まも}り^り本^{ほん}尊^{そん}と^とい^いふ^ふ即^{すなは}ち^ちも^もた^たへ^へて^て
さ^さに^に父^ふ母^ぼあ^あま^ま血^{けつ}氣^きに^にも^もや^やお^おも^も者^{もの}も^もあ^あら^らず^ず

一^いは^はせ^せ免^{めん}て^て意^い馬^ばと^とい^いふ^ふこ^こと^とも^もあ^ある^る跡^{あと}勒^{りく}の^の偈^ぎ
ふ^ふあ^ある^る如^{ごと}く^く現^{げん}在^{ざい}に^にも^も臺^{たい}と^とい^いふ^ふ在^ある^る活^{かつ}き^きに^にも^も
乃^な神^{しん}佛^{ぶつ}を^を信^{しん}仰^{やう}す^すべ^べし^し

一^い娶^{めと}得^え好^{こう}妻^{さい} 魚^い水^{すい}情^{じやう}和^わ睦^{ぼく}

幼^{よう}稚^ちの^のと^と死^しに^に角^{かく}髪^{はみ}あ^ある^るの^の時^{とき}を^をと^とて^ては^は
中^{ちゆう}ん^んご^ごれ^れふ^ふ孝^{かう}と^とい^いふ^ふでも^{でも}う^うく^く相^{さう}愛^{あい}随^{ずい}ふ^ふん^ん
か^かん^んご^ごら^らふ^ふ父^ふ母^ぼ乃^の妻^{さい}示^しす^すも^も年^{ねん}度^ど可^か

あつゝ家業も怠惰なるゝが禍ハ懈惰
よ生ハ老ハ妻るゝ暮ハと娶妻なる
あつゝ父母乃煮み合ふゝ合ふまゝいざんせ
かまの次りゝむゝやに艶美らぬゝ
父をこゆせ中人と我う十分ゝ容顔
麗ハ泣くはゝゝやゝな華振好妻と
娶得てサゝるゝと来ゝ漸と父母ハむ
たうねるゝゝとむゝゝのゝやゝにあらて

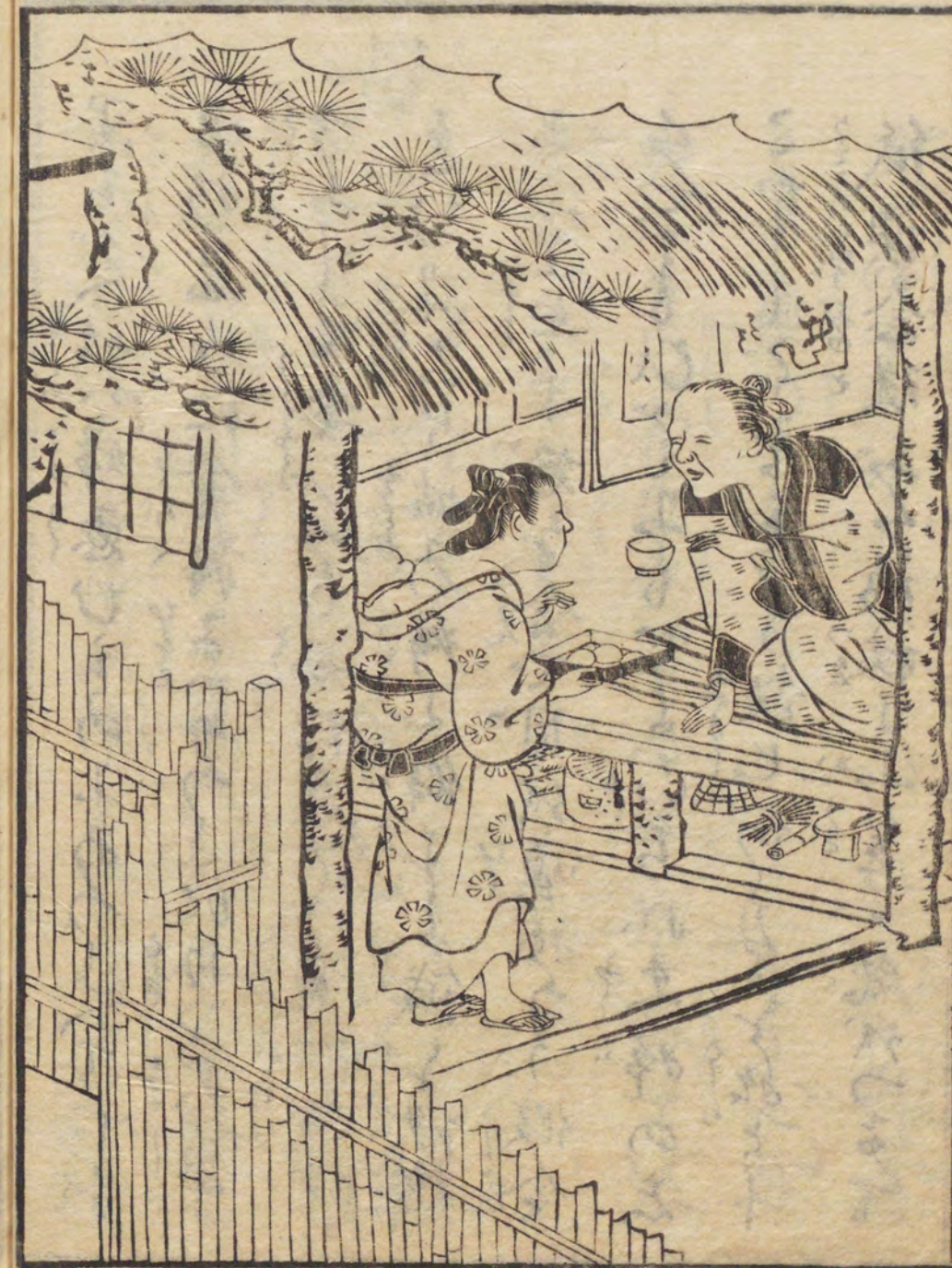
あゝ且暮女吏ハ一附て居ゝ其魚水
さゝゝゝゝ何れもゝえ人朝ゝゝあゝ
中船乃あゝゝ波ふゝい寢やゝゝ
晨ふせゝ何ふゝゝゝやゝ鯉魚
蘆芥ハ酔ふゝ似か容ゝゝみ半刻
眼とあゝゝ起て出る夫婦別ゝゝ古
よ里乃あゝゝゝ美色ハ溺せうゝ
成ぬゝゝ婦ハ艷容自誇ふ方あゝゝ

夫が婦や婦が夫やとれが我々折が破
の疎め内介は奴婢乃妬にも想中
是でア家治王さうなもぬう

母若責一言 含怒嗔雙目

婦女乃臂の煖がハ疾此邪入王婦と
妬の莫逆と物恠此中といふ俚言をや

王ちぐ姑ハ婦惡むものふあつて何れ
もあつてに會濟子へりつてに母と大車
方やて妻ひいて母たよく責一云す
まバソヤあは姑ハ癖と鍼と鉄杖
ふを王と一怒を會で目我嗔とる假令
くせもひぐさもせよあらは夫婦の志
こかしぐそもく飯ヒつてを姑と
紙襖念珠づらぬ杖よ小笠よ気張つて



四肢の按摩茶餌尼達あまのうけせん小提こぢ陀だ
夕時ゆふとき訪まうく此こゝ掘ほり飯い白しろ酒さけ密みつ淋しみ耐た者もの行い白しろ
干菜かんさいの和物わぶつ白しろ柳やなぎ崎さきく根ねも盡つせぬ
宿しゆくりでたう往き生なめさうやで情なさけとくく者もの
つおしく音おと空そら川の二ふたすすにささううく水みづ成なりおおか
がーえ掌てのひらふふくハはむむままくハはいいううめめ
天魔てんま夜や又またるるををややももほほるるををととせせいでいでああん
ととやや、彼物あつちのもの恠おどろくくととくく誘い誘いハハせせるる不ふ孝こうに

子こふ孝こう乃なり婦ふハハ焦こつつててくくりりに多おほく孝こうひひ乃なり
婦よめ女をんなハ判事はんじ人ひと考かんがややと大おほ切きなりなりハ其その五いつ誘い
て物恠ものおどろくくととくく人恠ひとおどろくくハ
妻あつちの或ある罵ののし百ひゃく般ぱん 陪おび笑わら不ふ為な辱はづ
かかののををそそ失あふふめめかかくくべべはは乃なり妻かああひひが

里さとといいハハ乃なり字じづづくくハ男おとこが素すふふ百ひゃく般ぱんと
罵ののしてしてと陪おび笑わらて辱はづとせせと愛あいくくと深ふかく

その其醜と忘るゝあつ母のけしき
眼かどたて妻はむくど瞳るまいハハ
くくまゝとて此の愛ふおとこ、彼の恩
をますけいぞうまふぞ

母被舊衫裙 妻著新羅縠

母は舊衫裙とて舊かゝる故あはれ
こゝろとげゝゝ七ツ刺の衣ふ雨も晴も

美令かゝといふ合羽をあてがひサテ妻は
衣裳とてハ羅縠とて花縞紗の江戸裾
ふもえゝ川似ふおとこ人鳥色天鷲
絨といふ字あまの比事と忘る天窓の調
度いふふ及むむ純繻繻のたふたふ
かけ女かゝるゆいゆとて蒼日傘志野ふ
くろ根乃鬢をわく比帽子紫冒を
あもふをこゝろ虚勢に水梅花花前

舊唐書

卷一百一十五

婕妤^{しやうし}沈^{しん}吟^{いん}たる雪柳^{ゆきりゅう}と不^ふ寫^{しやう}飛^ひ片^{ぺん}くく
金^{きん}コあ^あく^くと艶粧^{えんじやう}も此^こえけ人^{ひと}ぞ野^の遊^{ゆう}
乃^の提^{てい}厨^{ちう}時^し代^{だい}まに画^えの烟盤^{えんぱん}い^いに泰^{たい}平^{へい}此^こ
御^ご代^{だい}あらむやと民^{てん}庶^{しよ}が大^{だい}宮^{きやう}人^{ひと}やと
宜^さ春^{しゆん}花^かをどし今日^{けふ}も明^{めい}日^{にち}もさあ
驕^{おご}奢^りい^いやし^し久^くと^とい^いま^まし^しあ^あら^らる^るる^るや

唐王中書剛勸孝篇 下

父母或鰥寡 長夜守孤獨

父^{ちち}も母^{はは}も老^{らう}て偶^ふに離^{はな}れ^れけ
と鰥^{くわん}と^との寡^{くわ}と^との孤^こ獨^{どく}い^いや^やむ^む人^{ひと}
い^いを眠^ねる^る夫^そふ孝^{かう}を^をれ老^{らう}人^{にん}強^{かう}く^く
けつと^とう^う看^{かん}經^{きやう}も^もい^いや^やい^いて^て山^{さん}鳥^{てう}

古詩十九首

卷之六

乃屋れまぐくし秋風淋しうう感冒
 病氣發らうあぬまうどが
 亭へ趣やうて卧うてあふ紙枕を
 してうり勿祈うも尊人のうさ紙サア
 灰散ううげうて古はう後ハ女
 うてう園飲の继续ノッペイ瑞炙れ旨い
 うのぼーでうやうあうう鼻唱調
 ふれ酩酊うなる老人乃けびしとあひ

やうも涙乃る涙らううてううやう
 うううう笑ひ甚しう家戚法界なるう

健則與一飯 病則與一粥

大馬うむるまで皆能養うとあを教ぜんと
 何とて別手とある父母一飯と食せて
 うけは孝行じやと思ううわらう孝うう
 うそれ我の父老とて飯とて粥で食

とる父乃壯健なるに遺情がふつと畢
竟父母と大馬回亦あつたつとこれ
が終る考との因果の理を説くてもあ
るがこれとまじりぬれ
己心即大猫さうと即心即仏であ
て即心即高とふものうに思ふと父母
乃疾病一粥とあつた十分恩ふあらう
させから菜價の費とて家私もたぬと
や安言それうに願も家私も誰にもと
と

わさるわがみ體を付きて拾うて来
棄置在空房 猶如客寄宿

父母とねう棄置して空房にお
る客寄宿乃如く佛僧の小費とてや
嫌情をなけ行ひは隣に翁との話も
念珠袋と堪忍袋とがひつゝは綻びそ
うねとふきしとあつたつと之を謹と用

若老ふんせりや

（ナハ）

と節^{ふし}を以^{もつ}て父母^{ふぼ}を養^{やしな}ふといひ又^{また}一^{ひと}生^{なま}乃^の計^{けい}を勤^こま在^ありともあ^あるに已^まる怠^{おこ}惰^ろを
の^のげてとい^いふ最^もの貌^{かたち}をせりとい^いふ
やうに儉^{けん}約^{やく}始^は末^{まつ}とい^いふたゞ父母^{ふぼ}より自^{みづか}
由^{よし}をせてせと先^{まづ}は白^{しろ}げしる不^ふ孝^{こう}といふも
世^よふ又^{また}ふ

将^{しょう}為^ゐ泉^{せん}下^げ鬼^き

命^{いのち}若^{ごと}風^{ふう}中^{ちゆう}燭^{しやく}

二あの一のよめ

二あの一のよめ

樹^{じゆ}静^{じやう}を人^{ひと}と欲^ほして風^{ふう}停^{てい}すに子^こを人^{ひと}
と欲^ほして親^{おや}を人^{ひと}と欲^ほしてありたゞとい^いふ者^{もの}
乃^{こゝろ}に思^{おも}ふとい^いふあ^ある人^{ひと}も貨^わ殖^{しやく}せ
親^{おや}を安^{やす}きやうの僥^{えい}倖^{しやう}とせば隠^{いん}居^こさせ
此^{こゝ}或^{ある}は富^ふが射^やすべし遺^い金^{きん}をい^いふたゞ
のイヤ思^{おも}ふ乃^の貨^わ賣^{ばい}してあ^あけどい^いふ
うして紙^し鸞^{らん}尾^びを流^{りゅう}星^{せい}をい^いふ一^{ひと}
般^{はん}な慮^{りょ}をい^いふ

力^{ちから}をい^いふ

（ナハ）

あふんぞう

快々至無常

孤棺殯山谷

暴露在草中

誰念營墳窟

若行乃人ものもく天命ふ遇りて生涯
まづいそぐともあきと多くハ酒色
溺遊樂耽王博奕ふ荒と伎藝ふ

誇王つけもその連詠ありのぞに春
家債積怠心乃品題多く皆己が
懈怠る負令此悔がじんく長
る振中なるもの言事乃も害父もみ
え快くてもおもくけなく一旦常此
風吹中らて父ハ即得往生安樂ハ何
で屈託ぢやいハ相果らる葬礼營む方役
さくももる懇意なるハ心此切程とこ

こころも下化二後目のちうらふ懲りて
びとむけりて号人もう鼓ても舞
ても仕様もなぐひうられ者もわと
流石ハ父の死骸をせ下もあられんバ
面影乃うめげえ及故でもう生死
のさういせうことなりしうふ七ツ孤棺を谷
小殯せとてやうく秋世高橋ふして
葬めてハちううと暴露して草中へ

をてとて京野小棄捨たうも同前を
うと食少なる様うもあめやうが率
初瀬一本うん墳窟と誓むこと代念
ん石碑乃墓冊う餐家の寡婦と
同し事うてう人もあう生てハう者死
下う子と母とてうんがマかうふり

儼得父母亡 兄弟分賊屋



死十倍乃恨惜と云々と性苦れ事々々
 今いさやうのこと死あひておなけ者なり
 ころころまはちどもちくと家勢より死
 まれも固ふ孝乃意う兄弟親属不れなり
 ツリヤ、我々家難が死ぶと竹魚山の杜鵑一
 聲之色とこと出け何と死れ死んぶ
 有らうこと死骸とあそく喧嘩乃聲
 枕念佛の鼓やせし恨はしこれ銅欲界

不識二親恩 惟念我之福

色界無色じやうりなく翁も老後
 二途川乃水激と死那底の底はそこ
 姦計おそろし死ことなり自愛う
 して人をも病うを病者ハ棄られあやう
 二親乃大恩と向はこと絲瓜乃皮も思ふ
 之竹拂底無理着中此族も己が欲う

かゝるげふも大師廻禪王と云ふなり
其の妙見指しやのイヤ家原此文殊系
龍ぞそろうれイヤ穴乃指花おふふ
はるはとそあ円安全息災延命七難即
滅七福即生法就成就皆令満多と人
とらさのけ高慢身勝しく神佛が没
巴鼻うんべとてくまがア擁護うまそ
かゝるれと思ふ神明佛陀乃冥感と云が

欲心引つけよと云弥天大ちやくりせい
ふ貪欲小眼も眩も心も礼まゝ前後
と志まふぞをなましく知悉乃幽霊が露
たやうな欲面うとも少くも分別も周
旋してアズーのまをといふもとらせうふ
咸謂此等人不如禽與畜
咸謂とハ世間一たいひやうむ人まるといふ

権者石也

九

こと也此等人と禽畜より不如たり
 福若禍淫とて各行の人ハ福とあ
 淫悪の人ハ禍とあふ天此心明たる
 之の人間乃責冊と催僕ハやふを
 懼せ天心とこハ催僕ハ急めたる
 之とて又居さいそハあふぬやに
 之と負ふ者此債と土ふあふ
 も水なつても償ハぬとあふぬこと

べとちとあふはふり忘せてぬ
 之とて全減禽畜ふおとまりとて
 なり人間乃債とふ人えもあふ大
 ふ負ふ債ハ二ツ子とて中とぬあ
 らぬおふ孝の債と負ぬやふ修
 しむ

慈鳥尚返哺
 羔羊猶跪足

カミ

七

急ぎへ父母の餌と哺あふ——美羊と
母乃乳をのび下跪して礼を容とふ
とまじ尚猶ハ二字ともにとまじあはせじ
即ち猶そつらつらとふ舞なをそれ
人面とくげねづ眼あ乃父子は礼教
さくあつ言代角で母河うち心の剣く
父と弑と親尊小説やとみ逢死とて地
獄乃釜底焦とまじと児もとつらつ

